

令和4年度真岡市総合教育会議議事録

1. 日時 令和4年9月22日(木) 午後2時
2. 場所 本庁舎405会議室
3. 出席者
(構成員) 石坂市長
山中教育長、杉村教育委員、大島教育委員、佐藤教育委員、邑楽教育委員
(関係者) 嶋田副市長
(事務局) 古澤教育次長、藤田学校教育課長、野村文化課長、風山学校給食センター所長、菅野自然教育センター所長兼科学教育センター所長、鶴見プロジェクト推進課長、林プロジェクト推進課複合交流拠点整備係長、高崎学校教育課総務係長、鈴木学校教育課教育政策係長、石川生涯学習課生涯学習係長、高崎スポーツ振興課指導係長、橋本学校教育課教育政策係主事
4. 傍聴人 0名
5. 議題
(1)複合交流拠点施設について
(2)国際教育について
6. 議事の内容
 - 1 開会
古澤教育次長 ただ今から、令和4年度真岡市総合教育会議を開会いたします。
本日の会議の進行を務めさせていただきます、教育次長の古澤でございます。よろしくお願いたします。
 - 2 あいさつ
古澤教育次長 はじめに、石坂市長からごあいさつをお願いいたします。

石坂市長 石坂市長あいさつ
- 古澤教育次長 ありがとうございました。
ここからの議事につきましては、真岡市総合教育会議設置要綱第3条1項により、石坂市長が議長となり進めて参ります。なお、議題(1)の複合交流拠点施設についての議事が終了いたしましたら、プロジェクト推進課は退席となりますので、ご了承ください

い。それでは市長よろしく願いいたします。

3 議事

石坂市長

最初に本会議の議事録署名人の指名を行います。

大島教育委員、佐藤教育委員を指名いたしますので、よろしく願いします。

これより議事に入ります。議題(1)複合交流拠点施設について事務局から説明をお願いいたします。

林係長

複合交流拠点施設(概要)について説明をした。

石川係長

複合交流拠点施設(図書館機能)について説明をした。

石坂市長

ただ今、事務局より説明がありましたが、何かご意見がありましたら、お願いしたいと思えます。

佐藤委員

現在、建築資材などの価格が上がっている状況だと思いますが、当初の計画通りに行くのでしょうか。

林係長

基本的にはやはり建築資材の高騰、コロナ禍、ウクライナの情勢もありますし円安もあります。したがって、若干の上昇というのが現時点では見込まれます。ただこれに関しては、契約書でも、物価スライドを明記しておりまして、国からも現在の経済情勢を鑑みてきちんとその変更契約をするようにという通達等も来ております。それにのっとりまして、今後、事業者と適正な協議をしていきたいと思っております。また、今の計画通りの場合、幾ら上がるということは、まだ今検討中ではあるので申し上げられません。計画にあるものについては、市にとって全部必要なものであります。ただ、その中でもやはり取捨選択をした上で、建設費が上がらないようにという努力は、忘れずに、私どもも努めて参りたいと考えております。

佐藤委員

ありがとうございました。また、各図書館が一つになると説明がありましたが、図書館の学習席は受験生とかにとってみると非常に需要のあるものだと思います。うちの子も、家でできなくて外で勉強するみたいなことがあります。今の席数に比べて新しくなったらどうなるのでしょうか。

林係長

学習席は今の図書館本館で206席ありますが、新しい図書館では全体で450席程度を計画しております。基本的にはカウンターに1人で座って勉強したりもできますし、個別のブースになっているスペースも計画しています。ソファーだけという席もあります。学習できる席だけで言っても、現状の2倍～3倍程度にできるよう計画しております。やはり、図書館の学習利用については、まちづくりプロジェクトでも高校生たちから話が出ました。市役所2階にも青空ステーションがありますが、そこで

学習できるとお知らせしたところ、夏休みや冬休みの学習で高校生などにかなり利用していただいています。そういった需要があることはよく分かりますので、学習できる席は十分に作っていきたいと思っています。

大島委員 個人の学習室とグループ学習室と二つありますが、何か違う使い方をするのでしょうか。

林係長 個人の学習室というのは、衝立等がありまして1人ずつ個別で利用できる机です。また、グループ学習室というのは、最近の図書館で事例があるのですが、例えば小中学生などが4人くらいで夏休みの課題研究などを友達と一緒にしたい、そういう需要もあると聞いておりまして、現時点で4~6名程度は入れる個別ブースのようなグループ学習室を、計画しております。もちろん、その他のイベントスペースにテーブルが置いてあり、そこで4人くらいで集まっての学習は可能ですが、ある程度閉じられた空間の中で勉強したいという需要に配慮して、グループ学習室を計画しています。

杉村委員 まちづくりプロジェクトは、非常に新しくいい考えだと思います。やはり真岡市にすみたいと感じるかどうかは、自分たちがまちづくりに関わった、関わっていないで変わってくると思います。そういう意味でこのまちづくりプロジェクトがいい方向に動いていることにすごくうれしく思いました。こういうものが欲しい、こうしてもらえるとありがたい、という若い人たちの考えや意見をどんどん取り入れることでよい環境が生まれていくのではないかと思います。ただ、自分からプロジェクトに参加したい積極的な人は来るとは思いますが、興味はあるがあと一歩踏み出せないような人たちも一緒に取り組めていけると、さらにいい方向に進んでいくのではないかと思います。

林係長 杉村委員のおっしゃる通り、昨年プロジェクトに参加してくれた高校生は4人だったのですが、とても積極的な学生で、今年度も参加してくれています。昨年度の4人の活動を見て今年度は友達や先輩など高校生がさらに21人入ってくれました。それぞれに熱量に違いはありますが、その中でこうやって活動を継続していくと新たに入ってくる方はいらっしゃいます。先ほどご説明しました100人の一歩という考え方が大切だと思っていて、100人いれば、それぞれの友達を呼んでくることで500人の一歩にもつながります。こういう形で、はじめは大きなことが出来なくても、ちょっとずつでも進んでいくのが大事だという認識のもと、サポートは大変な部分もありますが頑張っけてやっていきたいと思っています。

杉村委員 現在の図書館は今後どうしていく予定なのでしょうか。

石川係長 現在検討しているところで、決定はしていません。

- 石坂市長 これについては、図書館だけではなくて、先ほどプロジェクト推進課の方からも若干ありましたが、真岡市だけではなく、人口減少はもう歯止めが利かない状況で、多くの公共施設が40年50年と老朽化しています。こういう公共施設自体を幾つか複合、統合したり、見直していく、今は適正な公共施設の数を検討していく段階で、図書館もそのうちの一つに入ってくるということだと思います。
- 山中教育長 子育て支援センターの機能、図書館機能、そして地域交流センター機能などを、ここでうたっていますが、子育て世代、それから図書館を利用する世代、高齢化社会がこれからどんどん進んでいく上で、地域交流ゾーンで、高齢者が何か参加できるような、集まれるような、そういうイベントのようなものを何か考えているのでしょうか。
- 林係長 具体的な企画はこれから来年度のワークショップ等で、こういうことを教えたい、学びたい、という意見を聞き取りなどして計画していきたいと思っております。事業者の提案では、真岡という地域の郷土資料、その中での真岡の今までの歴史であったり、あなたたちが住んでいるまちはこういうまちなんだということを教えていくのが大事だという提案もあります。私も自分が生涯学習を学んできたので、その大切さを痛感しています。そういった地域の歴史を教えられる人はおのずと、やはり年齢が上の方、経験値がある方なのかなと思います。もちろん、高齢の方が教えるだけではなくて若い方から教わることもあろうかと思えます。別の地域などでは、高校生がスマホの使い方を高齢の方に教える講座を開設した例もありますので、一方が教える教わる関係性ではなくて、お互いが教え合うという関係性を作っていくのが大事なかなと思っています。具体的な講座内容についてはこれから詰めていきますが、幅広い年齢の方に参加いただけるという講座を展開できるようにして参りたいと思っております。
- 山中教育長 ありがとうございます。幅広い年齢層での交流の拠点になるような、この地域交流ゾーンの活用をぜひ期待したいなと思っております。
- 邑楽委員 中高生の読書離れ対策としていろいろ考えられていらっしゃる素晴らしいと思うのですが、すごく集まってしまう、たまり場になるようなときもあるのではないかと思います。そうなったときにはやはりマナーの徹底というのがかなり難しいかと思いますが、どのようにお考えですか。
- 林係長 私も視察に何ヶ所か行かせていただきますが、どこの施設も悩むところでありまして、場所によってはテレビゲームを持ち込んで、それも許可しているところもあります。ただ、使い方に関してはやはり図書館でありますので、声を出してもいいですけど、

基本は本を読んだり、勉強するという利用の仕方を推奨していきたいと思っています。そのうえで、具体的な運営上のルールについては、利用者が増えれば増えるほどそこは悩みどころとなってきますので、運営者とどこを落としどころにするのかよく相談しながら、節度を守った利用ができるように考えていきたいと思ひます。

大島委員 この2階のこの子供広場ですけれども、これは遊具を置くような考えでしょうか。

林係長 2階の子供広場に関しては、今現在真岡駅の3階部分の子供広場にあるような、遊具の設置を考えております。規模は真岡駅が200平米弱ぐらいですが、複合交流拠点の遊び場は約600平米、3倍ほどの規模感になります。そこに遊具を置く予定で、具体的な遊具の選定等はこれからですが、計画に書いてあるように、基本的にはすべり台や、築山のようにしてみたり、買ってきた遊具を置くだけではないように計画しております。

邑楽委員 複合交流拠点施設ですが、これを見て本当に素晴らしいなと思ひました。私の小さいころを思ひ出しても、こういうのがあったらよかつたなと思ひました。特にこの2階の子供広場は、小さなお子さんをお持ちの方にとってはすごく嬉しいことだと思ひます。余談になりますがうちの長男の妻も、真岡市の子育て支援センターに随分と足を運んでいました。そんなことを考えると、特に雨の日がものすごく利用しやすいし、また同じ悩みを持つ親同士の交流というのも図れると思ひます。そういう意味では、この子供広場が、すごく素晴らしいと思ひます。ありがとうございます。

石坂市長 邑楽委員がおっしゃった通り、人との繋がりも少なくなっており、相談したくてもできないという方は、まだたくさんいると思ひます。こういう中で同じ、いろいろなものを抱えた人たちが、相談、会話することによってストレス解消ができた、いろいろなことができるのだらうと思ひますので、ぜひご利用いただければと思ひます。

その他、意見等なし。

石坂市長 それでは、議題(1)複合交流拠点施設については以上とさせていただきます。ここで、プロジェクト推進課は退席となります。それでは続いて、議題(2)国際教育について事務局から説明をお願いいたします。

鈴木係長 国際教育について説明した。

石坂市長 ただいま、国際教育について、事務局より説明がありましたが、説明に対し、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。

佐藤委員 真岡市においての外国に繋がりのある児童生徒数の推移がありましたが、ポルトガル語やスペイン語を使われる国の方が多いということが真岡市の特徴だと思います。また、現在日本語と英語教育は一生懸命やっていますが、大学に行くと第2外国語を習得するのに非常に苦労することがあると思います。これは一つの提案ですが、ポルトガル語とかスペイン語とかの無料講座など、真岡市に在住の話せる方々に協力してもらいながら、さきほどの複合交流拠点施設などでやれると、第2外国語を習得する際にも、ポルトガル語やスペイン語をスムーズに習得でき、真岡市で、ポルトガル語スペイン語を話す方がすごく増えていって市の特徴としてもいいのではないかと思います。

古澤教育次長 貴重なご意見ありがとうございます。今のご意見につきましては、生涯学習の面と、国際交流の面とがあると思います。市民講座を扱う生涯学習課や、国際交流を扱うくらし安全課などと協議しながら、できることであれば、進めていきたいと考えております。

杉村委員 みんながみんなそうと言えないかもしれませんが、外国人の親御さんの話では、日本語教室は非常にありがたいが、自分たちが持っている言語も話せる子供になって欲しいというような希望があるということを知ったことがあります。例えば、入学した子どもが、日本語はどんどん上達するんですけども、親とか父親の母国語を忘れてしまうと。将来母国に住むかもしれない、行くかもしれないと考えたとき、やはり母国語で話す機会も、残しておくべきではないかと思えます。

鈴木係長 貴重なご意見ありがとうございます。以前私が読んだ資料の中にも同じような話がありました。子どもがどんどん学校の現場で日本語を学んでいくと同時に母語を忘れていくという問題がやはりあって、そうするとその将来、進路の相談とかに至ったときに、保護者との意思疎通がうまくいなくなるケースもあるようです。今のようなご意見を、外国人児童生徒の教育研究会がありますので、情報提供させていただいて、学校現場の方にも伝えていきたいと思えます。

杉村委員 旧中村東小学校に開校した日本語学校(真岡みらい日本語学校)との交流などはあるのでしょうか。

石坂市長 真岡みらい日本語学校は、現地の最低高校以上の卒業生を留学生として受け入れ、2年間日本語を勉強した留学生は、日本の学校に進学する人、そのまま就職する人、また母国に帰るなど、様々な進路に進むそうです。ただ、なかなか留学してくる方も、授業料や勤務形態などの問題もあり、まだ来ている国自体が若干少ないそうです。

したがって、将来的にはいろんな連携をしていきたいという希望があるようですが、経営している民間業者もまだ手探りでどのように進めるか検討中だそうです。

大島委員 大内中が、現在中国の学校と上手く交流できてないということで、ここにオーストラリアの学校とメールのやりとりというのが書いてありますが、将来的にそちらに移行していくのでしょうか。

石坂市長 大内中の場合、残念なことに私は行ったことがありませんが、姉妹校北京市第五中学分校というのは、北京ではかなりハイクラスな学校だと聞いています。真岡市のほかにもいくつかの学校と姉妹校を結んでいるようでして、重点がヨーロッパに向いていることから、大内中との交流が進んでいないようです。今年真岡市はハーヴィ市と姉妹都市を締結いたしました。やはり、学校だけ姉妹校という形では交流が途切れる可能性が高く、行政同士が姉妹都市や友好都市となり、絆を深めていくことによって学校同士の交流も継続していくのだと思います。真岡東中学校のグレンドーラ市とも直接交流が一時停滞していた時期がありましたが、たまたま日本人の方で最初から関わってくれていた方がグレンドーラにいたため、ではもう一度と、締結30周年を契機に新たな取り組みをしていただきました。また、真岡西中学校の台湾斗六市は非常に近い国でありますので、時差もほとんどなく、スムーズな交流を行っています。市としては、姉妹都市、友好都市の締結をすすめることで、継続的に交流できる方向になればと思います。

台湾の斗六市とも、学校は姉妹校ですが、行政同士はまだ友好都市になっていないので、今年ロータリー30周年という契機に2回から3回ロータリーや市長とオンラインで会談し、友好都市として正式に締結しようという意思疎通はできております。ただ、今のコロナ禍の影響でお互いに行き来できていないので、来年の早いうちに、お互いに訪問し正式に友好都市を結べればと考えています。

ちなみに、山前中学校の姉妹校交流は現在どのように進んでいるのでしょうか。

鈴木係長 山前中学校はサドブルックマグネットミドルスクールと姉妹校となっておりますが、派遣はしていますが、コロナ前から相手校からの受け入れはできていない状態が続いています。ただ、山前中学校が去年のビデオメッセージなど積極的に交流を行っており、口頭ではありますが相互交流をしたいというお話はもらっているそうです。

石坂市長 私が御父兄の方から聞くところでは、日本側の一番の課題は、派遣は特に問題はないが、受け入れのホームステイのハードルが高いことにあるようです。私もPTAの時にアメリカに行って、受け入れも行いましたが、外国ではお客さんを家に招くことに慣れていますが日本人は比較的慣れていない、受け入れ時の部屋の確保など様々な課題により、受け入れが難しく感じるのかなと思います。

山中教育長 今、子どもたちも英語でのコミュニケーションが取れるようになってきていて、その子どもたちが親世代になってくると、そうした受入れのハードルはかなり低くなるのではないかと思います。今現在、我々の世代は、外国人の方との交流が難しく、外国人の方々を受け入れるハードルが高いように思いますので、世代が変わると受入れやすくなってくのではないかと思います。また、交流の目的が子どもたちの交流を目的とすることを、学校から再度保護者に説明を具体的にしておくことでもハードルは下げていくことができるのではないかと考えています。

杉村委員 例えば、ホームステイではなく、自然教育センターに泊まるなどをすれば随分ハードルは下がるのではないかと思います。市で場所を提供していくことで、家族構成であったり、具合が悪い人がいる、部屋が確保できないといった様々な要因を解消できるのではないのでしょうか。

山中教育長 最悪そういう形もとらざるをえなくなるかなと思いますが、私も、こちらから子供たちを送り出して、向こうでホームステイをした子からの感想を聞いたり、二宮地区はホームステイをしない海外派遣をやっていました。その子たちのその海外での経験、全く違います。やっぱり1人でその向こうのホームステイをしていくという経験はすごいことです。そして、向こうの家庭とも、本人同士、ずっと繋がりを持っていて、いまだに交流をしているという子たちの話も聞いていますので、できればホームステイをさせたいし、逆にこっちでホームステイをして欲しいなど私は思います。

邑楽委員 私が本当に難しいと思うのは、派遣をする年には、希望してくる子どもたちがたくさんいます。その後20人に絞っていきませんが、希望者の中にはアパートに住んでいて2部屋しかないが、私はどうしても行きたいんだという生徒もいました。ただ、次の年にホームステイを受入れるという条件があるため、本当に行きたい気持ちがあっても、家庭の事情でいけないという子をやはり今まで何人も見てきました。そういうところはやはり、改善してあげて欲しいなどと思います。

それから、私もオーストラリアシニアハイスクールの方には2回ほど行かせていただきましたが、向こうの生徒さんや先生方が大変優秀で、教頭先生は3ヶ国語か4ヶ国語を話すそうです。私は片言の英語と日本語しかできないので、今度来るときはもっと英語を勉強してきてくださいと言われてしまいました。生徒たちも英語がペラペラで、日本語もすごく堪能です。そういう意味からも、特にこれから小学校における英語教育も、充実してくるかと思います。共通語として英語はみんなに勉強させたいなとつくづく感じました。

特に、オンライン交流ビデオメッセージ、メールの交換など、現在直接の交流が難しい時期のこういった活動は、非常に大切だと思います。言葉の壁を越えた出会いという

のは子供たちの夢も膨らむし、すごく素晴らしいものですが、積極的な子どもたちは積極的にやると思いますが、そうでないおとなしい子どもたちも中にはいます。私が真岡中学校にいたときには、英語の授業の中で、全員にオーストラリンドシニアハイスクールの生徒に、交流をさせるための手紙を書かせるといったことをさせていました。学校単位になってしまうかと思いますが、全生徒にかけがえのない出会いを、経験させてあげたいなど感じるのので、これからも力を入れていただければと思います。

石坂市長 オーストラリンドシニアハイスクールの規模というのはどれくらいになりますか。

鈴木係長 手元に資料がなく、生徒数の正確な数字はお答えできませんが、人口規模からするとそこまで大きな規模ではないようです。(2020年現在で1251人 オーストラリンドシニアハイスクールのホームページより)

山中教育長 日本語の学習過程もオーストラリンドシニアハイスクールにはあるため、その子たちは特に日本語が上手なようです。

石坂市長 オーストラリンドシニアハイスクールでは、第2外国語を全員選ばなければならない、今選択者が一番多いのは日本語だそうです。
余談ですが、真岡の50代の方でJICAで、日本語を教えにヨルダンの大学に2年間行くという方が本日訪問してくれました。ヨルダンでは日本語を大学で教えるほど日本語が人気なのかと聞くと、アニメが要因だそうです。ただ、そこで日本語を覚えたとしてもヨルダンには日本企業がないそうで、日本企業がある国は日本語を覚えようとするきっかけは日本企業に勤めるためなどですが、ヨルダンでは、アニメがきっかけとのことで、長く続けてくれるのかどうか、これが課題だと話していました。そういう場所に勇気を持って行くというのは大変なものだと思いますので、2年間行って帰ってきたら、中学校でもぜひ機会があったら、講演していただきたいところでした。

その他、意見等なし。

石坂市長 それでは質問もないようでございますので、この件については以上とさせていただきます。大変熱心にご協議いただきましてありがとうございました。

古澤教育次長 長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。

4. その他

古澤教育次長 次第の4、その他であります。委員の皆様何かその他でお気づきの点ございましたら、お願いしたいと思います。いかがですか。

その他、意見等なし。

5 閉会

古澤教育次長 以上をもちまして、本日の議事のすべてを終了いたしました。皆様からいただいたご意見、ご提言につきましては、今後の教育施策に生かせるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和4年度真岡市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

6 閉会時間 午後3時15分